

貸借対照表科目	場所・物量等	取得年度	使用目的等	取得価額	減価償却累計額	貸借対照表価額
Ⅰ 資産の部						
1 流動資産						
現金預金						
現金	現金手許有高	—	運転資金として	—	—	× × ×
普通預金	〇〇銀行〇〇支店他	—	運転資金として	—	—	× × ×
			小計			× × ×
事業未収金		—	〇月分介護報酬等	—	—	× × ×
.....	.....	—	.....	—	—	.....
流動資産合計						× × ×
2 固定資産						
(1) 基本財産						
土地	(A拠点)〇〇市〇〇町1-1-1	—	第1種社会福祉事業である、〇〇施設等に使用している	—	—	× × ×
	(B拠点)〇〇市〇〇町2-2-2	—	第2種社会福祉事業である、▲▲施設等に使用している	—	—	× × ×
			小計			× × ×
建物	(A拠点)〇〇市〇〇町1-1-1	19 × × 年度	第1種社会福祉事業である、〇〇施設等に使用している	× × ×	× × ×	× × ×
	(B拠点)〇〇市〇〇町2-2-2	19 × × 年度	第2種社会福祉事業である、▲▲施設等に使用している	× × ×	× × ×	× × ×
			小計			× × ×
定期預金	〇〇銀行〇〇支店他	—	寄附者により〇〇事業に使用することが指定されている	—	—	× × ×
投資有価証券	第〇回利付国債他	—	特段の指定がない	—	—	× × ×
.....	.....	—	.....	—	—	.....
基本財産合計						× × ×
(2) その他の固定資産						
土地	(〇拠点)〇〇市〇〇町3-3-3	—	5年後に開設する〇〇事業のための用地	—	—	× × ×
	(本部拠点)〇〇市〇〇町4-4-4	—	本部として使用している	—	—	× × ×
			小計			× × ×
建物	(C拠点)〇〇市〇〇町5-5-5	20 × × 年度	第2種社会福祉事業である、訪問介護事業所に使用している	× × ×	× × ×	× × ×
車輛運搬具	〇〇他3台	—	利用者送迎用	× × ×	× × ×	× × ×
〇〇積立資産	定期預金 〇〇銀行〇〇支店他	—	将来における〇〇の目的のために積み立てている定期預金	—	—	× × ×
.....	.....	—	.....	—	—	.....
その他の固定資産合計						× × ×
固定資産合計						× × ×
資産合計						× × ×
Ⅱ 負債の部						
1 流動負債						
短期運営資金借入金	〇〇銀行〇〇支店他	—		—	—	× × ×
事業未払金	〇月分水道光熱費他	—		—	—	× × ×
職員預り金	〇月分源泉所得税他	—		—	—	× × ×
.....	.....	—		—	—	.....
流動負債合計						× × ×
2 固定負債						
設備資金借入金	独立行政法人福祉医療機構他	—		—	—	× × ×
長期運営資金借入金	〇〇銀行〇〇支店他	—		—	—	× × ×
.....	.....	—		—	—	.....
固定負債合計						× × ×
負債合計						× × ×
差引純資産						× × ×

(記載上の留意事項)

- ・土地、建物が複数ある場合には、科目を拠点区分毎に分けて記載するものとする。
- ・同一の科目について控除対象財産に該当し得るものと、該当し得ないものが含まれる場合には、分けて記載するものとする。
- ・科目を分けて記載した場合は、小計欄を設けて、「貸借対照表価額」欄と一致させる。
- ・「使用目的等」欄には、社会福祉法第55条の2の規定に基づく社会福祉充実残額の算定に必要な控除対象財産の判定を行うため、各資産の使用目的を簡潔に記載する。なお、負債については、「使用目的等」欄の記載を要しない。
- ・「貸借対照表価額」欄は、「取得価額」欄と「減価償却累計額」欄の差額と同額になることに留意する。
- ・建物についてのみ「取得年度」欄に記載する。
- ・減価償却資産(有形固定資産に限る)については、「減価償却累計額」欄に記載する。なお、減価償却累計額には、減損損失累計額を含むものとする。
- また、ソフトウェアについては、取得価額から貸借対照表価額を控除して得た額を「減価償却累計額」欄に記載する。
- ・車輛運搬具の〇〇には会社名と車種を記載すること。車輛番号は任意記載とする。
- ・預金に関する口座番号は任意記載とする。